

# 中国 新連載 路地裏経済漫歩

「今天你晒工资了吗(今日あなたは給与を暴露しましたか)?」—。北京大学の副教授が開設したブログが発端になり、ネットを通して自らの「給与明細」を暴露する行為が社会現象にまで発展している。彼我の給与所得差があらわになれば、「高み」を目指した転職ブームもさらに拍車がかかってくるかも知れない。

はいつも三割程度差し引かれています。貧しいでしょ」

「俺はアメリカの有名大学卒業、MBA

取得。二〇〇四年に上海に戻り、現在、某外資系企業の部長。基本給一万元に交通費、食事手当、通信手当など二五〇〇元がプラスされる。ボーナスは三カ月。全部合わせて年収一九万元、税引きで一六万元程度。少なすぎないか！俺は有名大学を出ているんだ！」

等々、惜しげもなく自分の給料を暴露しています。匿名による書き込みながら、かなり具体的な内容に触れていることから真実性は高いと判断されます。

## 発端は大学副教授のブログ

実はこの「給料明細暴露」サイト、昨年九月に北京大学のある副教授が自分の給与明細を自身のブログで公開したのが発端とされています。その後多くの人々が、その給与のあり方についてネット上で激論を交わし、それが高じて自分の給与も暴露しようようになっていきました。

「中国青年報などの調査では、現在約一七〇万人がこの種の

サイトで給与明細を暴露し、中国全土のネットユーザーの約半数が「高い関心」をもってサイトを訪れているとされています。

## 社会現象となった給与暴露、サイト 転職ブームが今年はエスカレート!?



「最近では、「今天你晒工资了吗(今日あなたは暴露しましたか)?」という言葉が流行語になるほどの社会現象に発展しています。

ほんの数カ月の間に、突如として肥大化した「給料明細暴露」現象について、専門家の間ではさまざまな分析が行われています。大方は「不満のはけ口にすぎない」と見ているようですが、高度経済成長を続ける中国社会にあつて、自身の社会的価値を推し量る基準が不明確になっていることを指摘する意見もあります。唯一「お金(給料)だけが確固たる判断基準になると考え、他人との比較で、自身の価値の合理性を求めようとする心理現象の高まりであるというのです。

もともと、地域や業種、ひいては社内の役職差で驚くほどの給与格差がある今の中国社会にあつて、自らの給与を晒して他人と比較することで心の安堵を求めることは難しく、むしろ、「高み」を目指して、転職に踏み切りを

つけるきっかけになると見たほうがよいでしょう。

## 春季転職ブームに拍車!?

「中国青年報」の調査では、「給与は個人の秘密であり、ネット上で公開すべきでない」と考える人は僅か二二%しかなく、「給与暴露は給与の透明性を高めるので良い」とする人はなんと五〇%に上ったそうです。

一方、最近中国大手の求人求職サイトが全国のホワイトカラーを対象に実施したアンケートでは、「春節明けに転職をしたい」と回答した人が約四割に達したといわれています。こういった転職志向の風潮も、「給料明細暴露」サイトが拍車をかけているに違いありません。

上海では、人材不足や人件費高騰に悩む日系企業も多いと思われませんが、こういったサイトの出現で、転職現象がエスカレートすれば更に厄介です。今後は、如何に仕事の「やりがい」を社員に与えていくかも重要な課題になるでしょう。「人」をめぐる中国進出企業の苦労はまだまだ続きそうです。



村岡健司(むらおか・けんじ)氏  
日中経済貿易センター 上海事務所所長  
中国社会科学院 中日経済研究センター  
特約研究員  
上海市外国投資促進中心 高級顧問  
『週刊エコノミスト』(毎日新聞社)「チャイナウォッチ」にて連載中